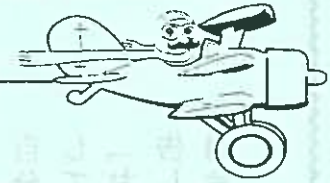


今日のテーマ

最新の医療保険について



\* 今回は、最近の医療保障分野について紹介しましょう。

一昔前まで、保険というと金太郎飴のようにどの保険会社でも同じような内容でした。しかし、保険業界にも規制緩和による自由化の波が押し寄せて各社の商品開発が活発になり品揃えが多様化しました。

消費者としては、選択の幅が広がったわけですが、保険商品は仕組みが複雑で各社の商品を単純比較しにくいのが現状です。

そこで今回は、人気分野の終身保障タイプの医療保険の一部をご紹介します。

メリット〇 & デメリット×

A社	〇 加入後5年ごとの期間に入院給付金支払が5日未満の場合、次の5年間の保険料が10%割引。最大50%割引になる。 また、払方・保障内容等のバリエーションが豊富。
B社	〇 保障内容を1入院限度60日にして保険料を安く設定。 × 1入院限度が60日では、不安。
C社	〇 入院日数でなく病名で給付金が支払われるため、支払日数限度なし。 × 病気ごとに給付金が違うので、わかりにくい。

\* 一般に、ある程度保障内容を絞り込み、保険料を抑えた商品が人気です。

上記だけでは、分かり難いので例としてA社の商品内容をすこし解説します。

入院給付金の設定は、3,000円～15,000円までの1,000円きざみ。

1入院の限度日数は、120日・360日・1,000日から選択できる。

払込完了設定は、55歳・60歳・70歳・75歳・80歳・85歳・終身払から選択。

入院、手術、死亡保障以外に特約等でカバーできる保障

通院・がん入院・無事故割引・無事故増額・長期入院加算・妻型・子型

初期入院給付特則（病気で初期7日間、ケガで初期4日間は加算して給付）

一つの会社の保障内容でも、加入のしかたによって保障内容は大きく変わります。

必要な保障を安いコストで賢く選びましょう。

私どもでは、皆様のお役に立つべく情報提供をすすめてまいります。

ご遠慮なくご相談ください。

今回は医療保障分野の新しい動きを取り上げてみました。  
実際にご自身のケースに置き換えて考えてみるとよいでしょう。  
生命保険の有利不利や損得勘定をすることは、なかなか難しいものです。  
具体的なご相談に応じますので、お気軽にお声をかけてみてください。

